



新しい校舎と税金

大田区立安方中学校 三年 加藤 恋

この夏、私たちの安方中学校に新しい校舎ができた。まだ中には入っていないけれど、きれいな壁や大きな窓が見え、とても楽しい気持ちになる。

前の校舎は長い間使われていて、壁や床が古くなっていった。でも、友達と授業をしたり部活をしたりしてきた思い出の場所だ。新しい校舎には広い教室などがあると聞いて、もっと過ごしやすくなると思うとわくわくする。理科室や音楽室などの特別教室も新しくなり、実験や音楽の時間が楽しみた。

社会科の授業で、こうした校舎づくりには税金が使われていることを知った。大田区に住む人たちが毎年納める税金が集まって、学校の建て替えや設備の整備に使われていると知り、私たちのために多くの人が支えてくれていることに感謝の気持ちがわいてきた。税金はニュースやネットで聞くことが多く、難しく感じていたけれど、自分の生活に直接関わっていると実感できて、これからもっと税のことを知りたいと思った。例えば、道路や公園、病院、消防署などの公共施設も税金で成り立っていることを考えると、私たちの暮らしは多くの人の協力で支えられているのだと感じた。

るのだと感じた。

私はまだ、たくさん税金を納める立場ではないが、将来は働いて税金を納めることで、次の世代の子どもたちのために学校や安全なまちづくりを支えたいと思う。新しい校舎に通うことができるのは、今までに頑張ってきた人たちのおかげだと感じるし、その気持ちを大切にしながらこれからも学びたい。

また、税金がどのように使われているのかを知るとは、自分たちの将来を考えるうえでとても大切だと思う。公立病院や防災のための設備なども税金でまかなわれている。これらは私たちが安心して暮らせる社会を作るために欠かせないものであり、学校の建て替えもその一つだ。そして、このような校舎の建て直しや地域の整備には、私たちが普段あまり意識していない「税金」が使われています。税金には国全体で集めて使う国税と、地域ごとに集めて使う地方税があり、その二つが私たちの生活を支える大切なお金になっています。学校の建て直しや道路の補修など、身近な場所に税金が使われていることを知ると税金が自分の生活とつながっていることを実感できます。もし税金がなければ、私たちは安心して勉強したり、暮らすことができません。だからこそ「税金があるから今の生活が守られているんだ」と思うと、税金と、税金を集めてくれている人に感謝の気持ちでいっぱいです。